

新美南吉『手ぶくろを買いに』

読書感想文の例2

© 作文技術指導研究会
無断での複製や二次使用を禁じます

はじめ

ぼくは、最後の最後に、お母さんぎつねが「本当に人間はいいものかしら」とつぶやくところが、とても気になりました。子ぎつねが、無事に手ぶくろを買ひ、お母さんぎつねのところへ帰ってきて、ほっとした場面での言葉でした。だから、余計に引ひかかるものを感じました。

なか

人間って、本当にいいものだろうか。ぼくも考えてみました。
ニュースを見ていると、毎日のように、どこかで、大変な事件が起きています。事件を知るたびに、暗く重苦しい、悲しい気持ちになります。世界に目を向けると、多くの国で紛争やテロが起きて、たくさんの方が犠牲になりました。世界にはみんな人間の行っていることです。そう考えると、人間は、決していいものではないような気がしてきます。このお話に出てくる、帽子屋のおじさんだって、子ぎつねが持っていたのが本当のお金だったから、手ぶくろをくれたのではないかな、もし木の葉だったらどうしただろう、と思うと、素直に子ぎつねに「手ぶくろが買えて良かったね」と言ってあげられない気がしてきます。

でも、一方で、人の優しさや、すばらしさに感動することもたくさんあります。たとえば、東日本大震災の時は、世界中から日本に支援の手が差し伸べられました。日本も、どこかの国で災害が起きると、支援します。ほかに、サッカーワールドカップの時には、日本人サポーターが試合が終わった後、ゴミ拾いをして応援席をきれいにして帰ったという話もありました。

おわり

こんなふうに考えると、人間にはいいところばかりではないけれど、いいところもいっぱいあるんだということが分かります。ぜんぶがいいと言えるようになるのは難しいかもしれませんが、でも、ぼくは、お母さんぎつねに「人間はいいものだよ」と、胸を張って答えられるような生き方をしたいと思います。